

## ミサを生きる (8)

### 【あわれみの賛歌】

#### ■起立したまま、賛歌を歌うか、または唱える。

「回心の祈りの後、つねにあわれみの賛歌が始まる。回心の祈りの中ですでに行われた場合はこのかぎりではない。この歌は、信者が主に呼びかけて、そのあわれみを願う歌であるから、通常、一同によって、すなわち、この役割をもっている聖歌隊または先唱者と会衆とによって行われる。

応唱は通常、2回繰り返される。ただし、種々の言語や音楽の性格、あるいはその他の事情から、3回以上繰り返すことができる。」(ローマ・ミサ典礼書の総則52)

・神に賛美をささげ感謝するためにわたしたちの心を新たにしてくださるよう、あわれみの賛歌をもって、主に声をあげ、主のいつくしみを願います。

先唱 主よ、あわれみたまえ                      会衆 主よ、あわれみたまえ  
(Kyrie eleison )

先唱 キリスト、あわれみたまえ                  会衆 キリスト、あわれみたまえ  
(Christe eleison )

先唱 主よ、あわれみたまえ                      会衆 主よ、あわれみたまえ

※ミサでは四つの「賛歌」が歌われ、または唱えられます。

①あわれみの賛歌 ②栄光の賛歌 ③感謝の賛歌 ④平和の賛歌

※「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。・・・ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神さま、罪人のわたしをあわれんでください。』言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。」(ルカ 18・9～14 参照)

「イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、『主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています』と叫んだ。・・・」(マタイ 15・21～28 参照)

「イエスがそこからお出かけになると、二人の盲人が叫んで、『ダビデの子よ、わたしたちをあわれんでください』と言いながらついて来た。・・・」(マタイ 9・27～31 参照)

「ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうか、わたしたちをあわれんでください』と言った。・・・」(ルカ 17・11～19)